

まりこふんさんに聞く

気軽に古墳に会いに行こう

古墳の楽しみ方を発信する「古墳にコーファン協会」の会長で、古墳への愛を歌い上げるシンガーソングライターでもある、まりこふんさんに古墳の楽しみ方を聞きました。

—百舌鳥・古市古墳群が世界遺産に登録され脚光を浴びています。

私が古墳ファンになったきっかけが、仁徳陵（大山古墳）だったんです。「前方後円墳」の形が見られるものと期待していたら、堀と樹木しか見られずでしたが…。近くにある堺市博物館の解説で世界三大墳墓（ピラミッド、始皇帝陵、大山古墳）のなかで面積が一番大きいことを知って「世界一なんだあ」と驚きました。帰りの阪和線の中で、インスピレーションが湧いて、古墳ソング第1作目となった『麗しの仁徳陵』ができました。

百舌鳥・古市古墳群はアクセスしやすく、多彩な古墳に出会えます。登れる古墳（鍋塚古墳など）もあれば、横から見ても前方後円墳の形が分かるもの（ミサンザイ古墳など）もあります。古墳カレー、古墳パン、古墳こんにやくといった「古墳フード」も豊富です。

—古墳の魅力って何でしょう？

3000基以上を巡りましたが、多様な形があることに驚かされます。古代の歴史に興味はなかったのですが、「前方後円墳の形がキレイ」と思ったのがきっかけでしたから。前方後円墳の他にも、円墳、方墳、帆立貝形古墳、八角墳など10種類以上の形が確認されています。しかも、日本の遠く離れた場所に全く同じ形のものがあるなど謎だらけ。誰がデザインして、どうやって造ったのかなど、想像が膨らみます。埴輪や勾玉、銅鏡などの古墳に關係する品々も多彩です。整備されていない山の中にある古墳を求めて野山を歩くこともあり、ちょっとした探検気分を味わうことも。北海道から鹿児島まで、温泉や地酒とセットで巡るのもサイコーに楽しいです。まずはナマの古墳に会いに行ってくださいね。

まりこふん的古墳巡りのススメ

- 駅からの道のりを楽しむ
徒歩や自転車で行けば、クルマでは感じられない古墳と古墳の距離間などを体感できる。
たどり着いた時の感動もひとしお。
□ 博物館へ足を運ぶ
古墳の所在地には博物館や資料館がある場合が少なくありません。土地と古墳の歴史を学べば、親しみがわくはず。ご当地の古墳グッズを味わう。
□ 古墳のデザインを楽しむ
古墳にはいろいろな形があります。まずは周囲を歩く。
□ 古墳に登る
登っていい古墳なら、高低差や周囲の景色を体感し古時代に思いをはせる。
□ 石室や石棺を観察する
石室に入るにはヘッドライトと軍手が必須アイテム。石棺があれば、よく観察しよう。
□ 古墳はお墓なので、敬意を忘れずに



写真 伊藤社

【プロフィール】
2013年1月、「古墳をゆるく楽しく愛でる」をモットーに「古墳にコーファン協会」を設立、会長を務める。各地の古墳イベントで活躍し、「まりこふんと行く古墳バスツアー」を開催中。CDに「古墳deコーファン!」「装飾古墳」他。古墳を巡るためのガイドブックも執筆。

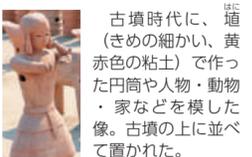
そもそも古墳とは

古墳は、「古墳時代」と「飛鳥時代」の約400年間（3世紀半ばから7世紀）に作られた各地の有力者のお墓。全国に約16万基余りが確認されている。毎年、新たに発見され続ける一方で、開発などで壊され続けている。

主な古墳の種類(俯瞰)

- 前方後円墳 (ぜんぽうこうえんぶん)
鍵穴のような形をしているが、鍵穴より古墳の方が古い。くびれ部分が可愛いデザイン。
前方後方墳 (ぜんぽうこうほうぶん)
前方後円墳の円部分が正方形になっている。東日本に多い。
円墳 (えんぶん)
丸いフォルムがキュート。古墳の中でも8~9割はこの形。
方墳 (ほうぶん)
正方形タイプで円墳の次に多い。大きなものになると、何段にも重なっている。

埴輪とは



古墳時代に、埴輪(きめの細かい、黄赤色の粘土)で作った円筒や人物・動物・家などを模した像。古墳の上に並べて置かれた。



歯科医・古墳研究者
宮川 先生
とめぐる
百舌鳥古墳群

古墳は歴史の生きた証人

破壊の過去見つめ、開かれた世界遺産へ



宮川 先生
みやかわ・すすむ 1932年堺市生まれ。歯科医の傍ら、古墳の研究を続け、遺跡保存と陵墓公開運動を進める。文化財保存全国協議会常任委員、奈良県橿原市考古学研究所研究顧問。

覇権争いで巨大化

矢部 何度か大山古墳(写真①)の周りをジョギングしたことがありますが、前立つと大きな圧迫感があります。
宮川 周濠のなかの墳丘は現状で全長486m、墳丘の長さでは日本最大の前方後円墳です。周濠の周囲は2・8mほどあります。

百舌鳥の花形役者

宮川 こちらは百舌鳥古墳群の「花形役者」の一人、土師二サンザイ古墳(②)です。
谷 大山古墳よりも小ぶりですが、私が住んでいる高槻市の今城塚古墳より一回り大きいぐらいです。

市民が守った証し

宮川 次はいたすけ古墳(③)です。周濠の橋脚跡を見てください。
谷 昔は橋が架けられていたのですか。
宮川 1955年の宅地開発をしようとした跡です。当時、百舌鳥古墳群で8番目に大きい前方後円墳のいたすけ古墳がつぶされようという情報が入り、駆け付けると橋脚工事が始まっていた。



①大山古墳の拝所前。左から宮川氏、矢部氏、谷氏②土師二サンザイ古墳(堺市提供)③いたすけ古墳④土砂採掘時の大塚山古墳(宮川氏提供)⑤大塚山古墳から出土した鉤状武器の復元(同)

被葬者の謎
矢部 なせ巨墳がいくつもあるのでしよう。
宮川 ヤマト王権は未曾有の巨塚として石津ヶ丘古墳の造営に取り掛かりました。しかし、吉備(岡山県)の首長連合が同一設計・同規模の造山古墳を造り対峙します。敗戦と吉備の二重の危機を感じた王権は「やられたら、それ以上にはやり返せ」とばかり、善田御廟山古墳を古市に、次いで大山古墳を百舌鳥に造らされた。

歴史の転換点
矢部 古墳の大小ではないのですね。
宮川 著名な考古学者でさえ「古墳の一つや二つなくって大した」と話していたぐらいで、「文化財」という言葉もまだ生まなかった時代です。仲間と署名活動を始め、「いたすけ古墳を護る会」を結成し保存に走り回ったのです。

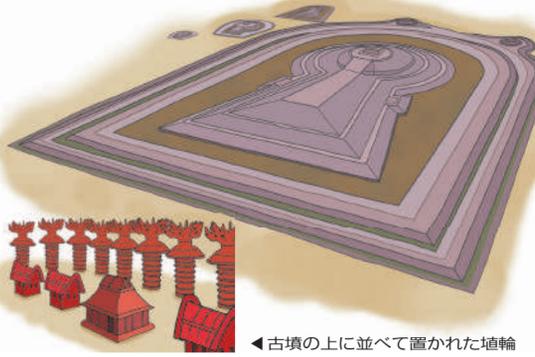
矢部 運動があったからこそ、壊されずに残ったんですね。
宮川 そうです。運動のなかで

矢部 戦時中は高射砲陣地にするために破壊された古墳もありました。堺空襲では大山古墳に300発以上の油脂爆弾が落ちました。大阪空襲では米軍機が大塚山古墳をランドマークにしたような状況を何度も見ました。古墳は歴史の「生きた証人」です。どのように日本人が生きてきたか、古墳ともに見つめてほしい。世界遺産登録は到達点ではなく、出発点。保存や研究、公開の在り方を考え、世界に開かれた遺産にしたいですね。



谷 聡
念もなかった時代である。
1960年に破壊された「いたすけ古墳」を見学した。古墳を真つ平にするために、土を搬出する橋をかけた。たのだが、すんでのところで破壊を阻止したという。保存の重要性を訴えた市民運動の尊さを感じずにはいられなかった。古墳は現在、タヌキのみかになっているのも微笑ましい。世界遺産登録が決まった今、その保存は違った意味で難しくなると思われる。

保存の難しさを実感



◀古墳の上に並べて置かれた埴輪

古墳Q&A

Q 百舌鳥・古市古墳群とは
A 堺市の百舌鳥古墳群と、羽曳野市・藤井寺市の古市古墳群で構成。4世紀後半〜6世紀前半に造られた前方後円墳や円墳、方墳など大小さまざまな古墳89基の地下空間があり、鏡や武器、馬具など一纏めに収められた。大山古墳の森は明治時代に植林されたもの。



百舌鳥エリアの主な古墳

読者プレゼント



抽選で著書を3名に

宮川 先生の『よみがえる百舌鳥古墳群』(新泉社、定価2500円)とまりこふんさんの『古墳の歩き方』(扶桑社、定価1300円)をセットで3名にプレゼントします。
応募はハガキまたはファクスで①住所②氏名③今号の感想—をご記入の上、下記までお送りください。なお、当選者の発表は景品の発送をもって代えます。
送付先 〒556-0021 大阪市浪速区幸町1-2-33 大阪府歯科保険医協会新聞部読者プレゼント係/ファクス06-6568-0564